

# 令和7年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立南石垣支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定</li> <li>* 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解</li> <li>* 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼</li> </ul>	昨年度の課題に合致する、具体性のある学校教育目標、目指す児童生徒像、教職員の基本姿勢が明確に示されている。また、移転先の地域や通学等の状況を勘案し、移転に向けた取組と運営ビジョンの設定が明確になっている。
	2 組織的運営・責任体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 教育目標、学校運営計画との一致</li> <li>* 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能</li> <li>* 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備</li> </ul>	学部主事、分掌主任が教育目標の実現を目指し業務に取り組んでいる。題材配列表を作成し、縦横につながった単元の検討がされている。
	3 服務監督・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備</li> <li>* 事件・事故発生時に迅速に対応するための実効性のある訓練や研修の実施</li> <li>* ヒヤリハット報告（医療的ケアを含む）の迅速な情報共有体制の整備</li> </ul>	防災訓練やシミュレーションを実施し、安全意識を高めている。また、外部の専門家の助言を得て、移転後の地域状況をふまえた危機管理マニュアルの作成に着手し、ほぼ完成されている。ヒヤリハットの全事案について、メールで概要・対応策等を全職員で共有しており、体制が確立されている。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組</li> <li>* 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組</li> <li>* 地域・企業・関係機関と連携・協働した取組</li> </ul>	保護者アンケートの回収率は高く、全ての項目で高く評価されている。ホームページは教育活動が見えるように日々更新され、発信力の強化を行っている。
	5 センターの機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組</li> <li>* 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組</li> </ul>	巡回相談数は減少しているものの、来校相談は学校見学と兼ねており、取り組まれている。
学習指導	1 授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践</li> <li>* チーム・ティーチングのよさを生かした指導の実践</li> <li>* 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫</li> <li>* 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組</li> </ul>	子ども支援カードや個別の指導計画の作成・活用がされており、教職員間で共通理解がされている。授業においては、チーム・ティーチングが活かされている授業もあったが、一部の授業での改善が期待される。喫茶接客の授業では、生徒がとても意欲的に学ぼうとし、リーダーを中心に生徒同士の分担も決めるなど、取組の進歩も見られる。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善</li> </ul>	個別の指導計画は適切に作成されており、指導内容や指導方法などを授業参観の際に確認することができた。
	3 授業研究・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 計画的な授業研究の実施等による、組織的な授業改善への取組</li> <li>* 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践</li> </ul>	研修の重点として、地域で生きる力をどう培うかを考えられている。改善も見られているが、今後も児童生徒同士が互いに問いかけたり、考えたりする授業が期待される。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組</li> <li>* 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導</li> <li>* 定期的な職場訪問等による状況把握、定着支援</li> </ul>	進路指導は、生徒と保護者とのヒアリングを反映した進路先の決定など、よく話し合いをして決定されている。ワーキングフェアでの企業担当者の参加、情報収集にも努めていることに加え、卒業後の追支援や定着支援がされている。
	2 職場開拓・就業体験の機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 福祉・労働等の関係機関との情報共有、連携</li> <li>* 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組</li> <li>* 作業学習等の学習の工夫・改善への取組</li> <li>* 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実</li> </ul>	ジョブ・コンダクター等と協力し、実習や雇用を検討してくれる企業の新規開拓を進めている。移転後のギャラリースペースの活用や喫茶サービスなどの接客の授業構想の準備が着々と進められており、「喫茶実習室」のオープンに向け喫茶サービスの学習にも取り組んでいる。職業（作業）の指導方法のスタンダードが高まることを期待している。
豊かな心・健やかな体の育成	1 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携</li> <li>* 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組</li> <li>* 情報モラル等、社会生活に必要な課題に対する適切な対応</li> </ul>	子ども支援カードを作成し、朝礼で定期的に読み合わせをしているなど、教職員全体で共通理解をし、生徒指導に取り組んでいる。
	2 教育相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携</li> <li>* 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組</li> </ul>	スクールカウンセラーとの情報共有や効果的な面談のための工夫がされている。専門家による指導・助言を行ったり、本人・保護者・教員で面談を実施したりすることで、引き続き成果が出ている。
	3 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組</li> <li>* 交流及び共同学習への積極的取組</li> </ul>	地元自治会、別府大学、地域の学校との交流を積極的に行っている。隣接している小学校児童との交流の際には、児童が「今日は出会いがいっぱいあった」と感想を述べている姿が見られた。
	4 安全管理・医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 幼児児童生徒の健康管理のための取組</li> <li>* 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り</li> <li>* 校内の医療的ケア実施体制の整備</li> </ul>	様々な緊急時対応のシミュレーションが実施されてきており、移転先の環境に基づくマニュアル作成も進められている。医療的ケアの実施体制も示され、看護職員や巡回看護職員で健康観察を行っている。
総合評価	校長のリーダーシップがミドルリーダー層まで届き、共通理解ができています。移転後のグランドデザインを明確にし、実現に向けた準備に取り組むことで、移転に対する不安が期待へと変化している。児童生徒も落ち着いて授業に取り組んでおり、思考・判断を促す支援や職業（作業）を実施する上での環境設定もされている。特に高等部の生徒の挨拶は大きな声で好印象であった。分掌業務の「業務遂行マニュアル」や進捗を見渡せる「業務進捗管理表」等を作成することにより、人事異動や主任の交代等による影響を少なくする取組が期待される。また、新たに喫茶サービスなども設け、実際に接客をする予定であるため、その成果が見て取れる実習先の開拓をしたりする取組が求められる。今後は「大分県立別府やまなみ支援学校」として、喫茶サービスやギャラリースペースの運用など、地域に根ざした学校づくりに期待する。		
校長コメント	学校運営においては、教頭をはじめ、主幹教諭や分掌主任などのミドルリーダーを中心に、南石垣支援学校の最終年度が児童生徒にとって充実した学びの一年となるよう、組織的かつ計画的に取り組んできた。児童生徒一人一人の可能性を引き出し、「できる」を増やすことで自己肯定感を高め、主体的に学習や活動に取り組む姿勢の育成を図ってきた。また、令和8年度からの別府やまなみ支援学校への移転を見据え、教育環境の変化に柔軟に対応できるよう、段階的な準備を進めている。移転課題検討委員会などを通じて、これまで地域や関係機関と築いてきた信頼関係を大切にしながら、新たな環境における連携体制の構築を目指しているところである。さらに、新たな喫茶実習室やホテル実習室、ギャラリースペースなどの活用を通して、児童生徒の学びの成果が校内にとどまらず、実習や就労の場においても十分に発揮されるよう、教育活動の質の向上に努めている。今後も、地域社会の中で自分らしく生き生きと活躍できる児童生徒の育成に継続して取り組んでいく。		